

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第43号(20130111)

発行 竹田 幸男



合同例会・忘年会

映像協会主催で12月15日(土)10時30分より門真市の松心会館で開催、合同例会の後、忘年会、終わって別室でカラオケ大会を行い、有意義な1日を過ごしました。

新年昼食会

1月11日(金)の例会に先だって11時30分より、市駅前「がんこ」で開催。新しい年の初めを祝い、今年の有意義な活動のスタートを切りました。

「映像編集用パソコンに求められる条件を探る」研究会開催

映像協会の主催で1月25日（金）市民活動センターで通称（パソコン公開組み立て講座）として開催。竹田会長が講師となり、映像同好会、映像寝屋川の会員および会員外も含めて14人が参加しました。

研究会は、まずパソコンの構成部品を見てもらい、それぞれがどのような働きをするか、また映像編集用としてはそれぞれの部品がどのような性能のものが必要かを理解して頂き、実際にケースに組み込む所を見学し、組み立て終わって動き出すまでを体験して頂きました。



例会の窓

平成25年1月例会

日時 平成25年1月11日（金）

13:30～16:30

場所 寝屋川市民活動センター

4階 こども部屋

出席者 新井 天野 石田 小笠原 佐伯 竹田 竹下 田淵 谷 （9名）
欠席者（0名） （50音順 敬称略）

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

（1）同好会の新年昼食会

- ・1月11日（金）、がんこ寿司に於いて11:30より開催。
- ・田淵さんのお世話により、全員参加で、かつ楽しく有意義な新年の集いであった。
- ・新年昼食会の後、市民活動センター4Fで1月例会を実施
- ・年頭に当たり、竹田会長より「青春とは心の若さ」である。今年は元気を出そう！と、
- ・引き続き、議事進行をはかった。映像協会の行事のあり方、当会の運営のあり方などを議論。

（2）サカイ8ミリ映像フェスティバルへの返礼訪問の件

- ・ 1 1 月 2 5 日（日）堺市民会館 小ホール。
- ・ 寝屋川市映像協会として、小笠原さんが出席した。
- ・ 堺市の盛大な文化行事の一環として行われていた。
- ・ 会長には参加したことに、大変喜んでいただいた。

（ 3 ） 合同忘年会の回顧

- ・ 1 2 月 1 5 日（土）松心会館にて、1 4 名参加。
- ・ 急病で 2 名の不参加。その他の欠席者が多かった。
- ・ 特に、映像寝屋川の方の欠席が多かった。今年はこれらのことを踏まえてどのように実施するかを検討する。

（ 4 ） エディロール編集ソフト講習の件

- ・ 1 2 月 1 7 日（月）京都映像倶楽部主催
- ・ 受講者は、竹田、新井、谷さん。京都・大阪の映像クラブの会長が 5 人ほど来ていた。
- ・ 利点としては、メーカーが当方のパソコンと同一画面を見て指導してくれることで、一人でも気軽に学習して、思いどおりの映像作りができるだろう。
- ・ 残念な点としては、出力がフルハイビジョンではなく、1 4 4 0 × 1 0 8 0 ドットのハイビジョンであること。

（ 5 ） パソコン公開組み立て講座の件

- ・ 1 月 2 5 日（金）1 0 時～1 5 時 市民活動センター 4 階和室
- ・ これから主流になるであろうハイビジョンの編集には、パソコンのスペックが問題になる。
- ・ 選択肢としてスペックを満たした完成品を買う、業者に注文組立を依頼する、知人に組立を依頼する、などが考えられる。そのための判断材料を得てもらう機会を提供し、資料を用意する。時間を作って参加してほしい。

（ 6 ） 市民活動センター体験講座の件（一部既報の通り）

- ・ 講座開催を、2 月 8 日（金）1 0 時より開催。
- ・ 竹炭の作品、ふれあいフェスタ参加団体 P R ビデオ素材を活用した作品を教材とする。
- ・ 松愛会の会にも声がけする。
- ・ 編集実演実施も検討する。
- ・ 2 0 人程度を対象にしたものとしたい。
- ・ 当日は、午後に例会があるので、合わせて当講座に参加してほしい。

- (7) 文化連盟展の件 (一部既報の通り)
- ・ 2 5 年 2 月 1 0 日 (日)
 - ・ 映像協会として出品 (アルカスホール)
 - ・ 持ち時間 3 0 分 (4 作品を出品決定)
 - ・ 当会からは竹田さんの 1 作品。 3 作品は映像寝屋川が出品。
 - ・ 当日は混雑が予想されるので、早めの入場をお勧めする。
- (8) 映像北大阪との交流会の件
- ・ 2 月 1 6 日 (土) 予定
 - ・ 詳細は 2 月例会にて。
- (9) 第 6 回ビデオ作品発表会 (一部既報の通り)
- ・ 1 0 周年記念発表会
 - ・ 平成 2 5 年 4 月 2 0 日 (土) 実施で推進する。
 - ・ 松心会館の主会場、打ち上げ会場予約済 (田淵さん)
 - ・ 1 月例会から出品作映写
 - ・ 2 月例会で出品作確定
 - ・ 3 月中にプログラム作成が必要
 - プログラムデザイン募集
 - 3 月末松愛会会報に折込
 - 3 月例会でプログラム配布
 - ・ 各自余裕をもって作品作りを進めること。
 - ・ 出品予定作品は、下記「 2 . 作品発表」で上映したものが
予定されている。
 - ・ 竹田さんは、下記の「空想旅行 C A N A D A 」を除き、
「琵琶湖疎水」「チェスキー・クルムロフ」から検討する。
 - ・ 竹下さんは、「ゆうちゃん 神戸花鳥園に遊ぶ」に、佐藤
さんの奥様のナレーションを入れたもので予定している。
 - ・ その他の部員の出品は、むつかしいと思われる。
- (1 0) 撮影会プロジェクトチーム (天野さん、小笠原さん)
- ・ 「男性モデルが、無言の演技をする複数の情景」を撮影。
 - ・ ストーリーは、撮影者がそれぞれに考え作品に仕上げる方式。
 - ・ 数人でテスト撮影を実施。実行可能と判断できれば、映像寝屋川に
提案し、賛同が得られれば実施する。
 - ・ 上記の設定、考え方のもと、伏見でテスト撮影を実施した。

- ・ 合同例会で、テスト撮影の竹田さん作「あいつ」を上映。
- ・ 出席者には、好評であった。下記の論議があったが、「4月、有馬」で実施したい。映像寝屋川1月例会にはかる。
- ・ 1泊2日については、今後の課題とし、今回は日帰りとする。
- ・ マイクロバスを使っただけの撮影会は、撮影計画がはっきりしており、撮影ポイントへの移動に必要性がなければむづかしい。
- ・ 興味を持つ人が参加すればよいとの考え方で、自信をもって提案。
- ・ 議論に参加していない人の意見を気にし過ぎないようにしよう。
- ・ 小笠原さんの申し出により、新井さんに当プロジェクトの担当をお願いすることになった。

(1 1) 編集援助の件

- ・ 佐伯さんの編集手伝い(谷さん2回目)
- ・ 撮影をしたが、ストーリーを考えたの撮影は難しい(佐伯さん)
- ・ 手ぶれを気を付けなければならないことが理解できた。
- ・ 竹炭づくりの映像を持っておられる。活用してほしい(谷さん)

(1 2) 「NVC Monthly」の記事執筆者の件

- ・ 次回担当 小笠原さん。

2. 作品発表

- (1) 「寝屋川竹炭づくりの会」 新井さん 9分54秒
- (2) 「画家たちの観光地」 新井さん 9分59秒
 - ・ 「画家のターゲット風景」というキャプションの複数のシーンの意味が分かりにくい、という意見があった。
- (3) 「ならまち」 天野さん 7分25秒
 - ・ ローアングルで撮ったシーンを織り交ぜて目新しさを出している。
 - ・ 4:3画面だが、こういう作品はワイドの方が良かった。
- (4) 「伏見」 天野さん 8分00秒
 - ・ 次回撮影会のためのテスト撮影会作品。ストーリーが面白い。
- (5) 「空想旅行 CANADA」 竹田さん 8分24秒
 - ・ 旧作であるが、静止画で作品を作りたい、という人の参考のために持ってきた。旅行パンフレット・案内書だけで作った作品である。
- (6) 「あいつ」 竹田さん 5分30秒
 - ・ 次回撮影会のためのテスト撮影会作品。参考作品として仕上げた。
 - ・ 前回の女性ナレーションを男性に変えた。

(7)「孫と一緒に金剛山へ」 谷さん 5分46秒

- ・楽しいホームビデオに仕上がった。ナレーションに、金剛山の標高を入れるとなお良い。

3. 次回例会

- ・2月8日(金) 13:30~
- ・寝屋川市市民活動センター 4階 こども部屋
- ・カメラ担当:谷さん。



私の夢見る「ユートピア」

小笠原 邦雄

大島渚監督が1月15日に逝かれました。私は監督のことはほとんど知りません。私の故郷である瀬戸内海に面した岡山県笠岡市に在住されていたことから、お名前を大島渚とつけられたと聞いています。そんなことからなんとなく親しみを感じていました。

このニュースを知って、昔、こんな映画を作るとお面白いなあー、と考えていたことを思い出しました。

高校在学中に工場見学に何回か行きました。そのとき吃驚したのは、多くの娘さんが、ロボットのようにラインで懸命に働いている様子に接したことです。こういった職場の状況は、どことも似たり寄ったりであることを後日知ることになりました。また、就職は大阪にと思っていたのですが、中国電力の方が先に決まりそうでやきもきしましたが、なんとか、第一希望であった松下電器に決まりました。

人事の仕事で製造ラインへもよく出かけました。やはり、製造ラインは人海戦術の様相でした。ラインに入って流れ作業の経験をさせてもらいました。遅れまいと作業に汗を流していましたが、若い女性に優しくハンカチで拭ってもらったことを思い出します。この頃の彼女たちは、給料を家庭に入れてそこから小遣いを貰っているのが一般的でした。

ひと月懸命に働いた給料なのだから、絶対に計算間違いをしてはいけない。残業も多く洗濯はこまめにする方ではなかったが、給料封入時には必ず身綺麗にしていたことを思い出しました。

世間知らずの田舎者でしたから、憧れていた都会の殺風景な生活になかなか馴染むことができませんでした。まわりはすべて先輩ばかりで下っ端の悲哀を感じていました。あまりに面白くないので、ちょっと茶目っ気を出してグッと曲がった格好の良いマドロスパイプでタバコを吸っていましたが、上司の部長がちょっと来い！ お前それは止める！ えっ！ タバコを吸っていけないのですか？ 何でもいいから止める！ 祭りの夜店で、ゴムでできたムカデや蛇を買って、部長の引き出しに入れて様子を見ていたら、引出しをあけてびっくり！ 小笠原かっ！ はい！ そうです。この件はこれで一件落着。可愛がっていただいたこの先輩が、仙台に定年退職の挨拶に来られた時に偶然お会いし、私の万歳でお送りできたのは懐かしい思い出です。

慣れない職場にあって、いつしか自分を主人公にした映画と思しきものを考えて、心の安らぎを求めていたように思います。

映画のストーリー？ いや、私の白昼夢かな？ 瀬戸内海の小さな島の城主の息子が主人公。封建時代の名残を潔しとせず都会に出ることにしました。苦労しているであろう若を慮って、爺がやってきてしきりに島に帰れと説得。休みを取って帰省することにしました。

島に船が近づきますと、島の娘さんたちが岸壁に集まり、若を迎えるための合唱をしています。若は感極まって海に飛び込み島に泳ぎ着きました。島の人たちは、儀礼ではなく、心から自分を受け入れてくれていることに感動するのです。あくる朝、馬で久しぶりに島を巡っていると、慈愛に満ちた人々の心に接することができて、都会の生活もかくありがたいものだど・・・

島には素晴らしく業績の良い会社があります。業容が大きくなるにつれて、世界からの来客の為のホテル、会社経営の百貨店、漁業組合、果樹園、畑、水田等々を有するようになりました。会社の従業員の中から、ホテル経営をやりたい、ホテル用の漁を、果樹園を・・・と、いうように、希望者を募って経営に当たらせています。会社はもちろん、島全体が生き生きとしているのはこのためです。従業員の希望をできるだけ満たすシステムが構築されています。

子供たちの余暇の教育は、寺子屋方式でやっています。海外からの駐在員の家族などを講師として、会社の技術者も・・・ また、海外の工場に島の子供達を受け入れる施設も有しており、多くの子供達が世界に羽ばたいています。子供達の無限の可能性を引き出せるシステムとして注目されています。

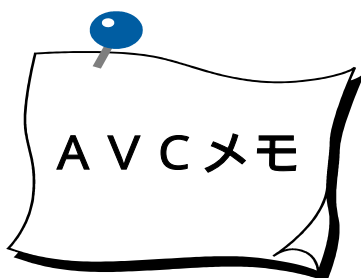
島の店舗には、包装を省いた商品、大きなタンクに入ったお酒・コーラ・水など。資源の節約、値段を安くするなど、流通のあり方を会社業務と合わせて徹底的に研究しています。島民の希望で商品の包装された見本（中身は空）を展示しています。安心して買えると好評です。

高齢者住宅は見晴の良い丘に、医療施設、店舗などのげた履き住宅が用意されており、居住している人達には大変好評です。また、仕事をしたい高齢者には、それなりの仕事が用意されており、社会への役立ちに合わせて、小遣いも手に入ると大変喜ばれています。仕事を生み出す研究所が設立されており、世界から注目されています。

また、この映画には、夕日の素晴らしい浜辺を舞台とした、次のようなシーンを是非入れたいと考えています。島の若人の男性達には、ニュージーランドの戦の踊りのような、男らしい踊りを踊らせ、若い女性達には、着物の裾を風になびかせる、優雅な？色気を・・・ 風はヒュルヒュル、波はザンブリコ。と。うーん！ これは面白そうだな！ と、悦に入ってます。

若は、都会で修業を積み、経営ノウハウを充電して、島に帰って素晴らしい活躍をすることになります。彼は、会社の生産技術の建物には、人工太陽を配置し、職場には花が咲き乱れ、トンボやチョウが舞う、そういった職場にしたいと考えているようです。生産技術という無機質な職場にこそ、潤いを与えようというのが信念になっているようです。

以上で終わりです。まだまだ、いろいろ考えているのですが、紙面の都合でこれくらいにしておきます。このような「ユートピア」をつくれれば、本当に楽しいと思った次第です。また、考えることにより、私の健全な精神衛生が保たれていたということでした。



「パソコン公開組み立て講座」を終えて 竹田 幸男

巻頭既報のように、「映像編集用パソコンに求められる条件を探る」研究会、として開催しました。実際にパソコンの構成部品を見てもらい、それぞれの果たす役割と、それが映像編集用途にはどのような性能のものが望ましいかを理解して頂きながら組み立

での状況を見て頂きました。その詳細はここでは省略し、その間に皆さんに番外として色々お話ししたことを、ここにメモしておきます。これはいつも申し上げたり、記事に書いていることで、重複しますが、大事なことなので再録しておきましょう。

自分で作ったデータはなるべく「Cドライブ」には残さない。

ワープロソフトや表計算ソフトで作ったデータを「保存」するとき、多くの場合「マイドキュメント」に保存するように誘導されます。このとき、言われるままにCドライブに保存せず、出来るだけパーティションで分割された「D」ドライブに保存しましょう。Cドライブというのはウイルスが取り付いたときなど、きれいに掃除してウィンドウズを再インストールしなければならない場合が起こり、その場合は作って保存したデータがマイドキュメントごと消えてしまいます。再インストールの前にそういうデータをコピーして持ち出せば良いのですが、その中にウイルスが潜んでいるかもしてません。せっかく苦労して作ったデータを守るためにも、ぜひCドライブ以外に保存するよう心がけましょう。

ウィンドウズや各種のソフトがCドライブに保存させようとするのは、ハードディスクがCドライブだけで、パーティションで分割した「D」ドライブの無いパソコンがあるためでしょう。Dドライブの無いパソコンは、外付けのハードディスクを接続して、そこにデータを保存するのが望ましいと思います。

なぜ「C」ドライブなのか。

CがあってAやBが何故無いのか、とお思いでしょう。曾てはありました。パソコンには2個のフロッピーディスクドライブが用意されて、「A」「B」と名付けられていました。2つ、というのはフロッピーの間でデータをコピーするためだったのです。それがまず1つ減ってBが無くなりました。データのコピーはAドライブのフロッピーからハードディスクにコピーし、その後元のフロッピーを外し、代わりに新しい（または消去した）フロッピーをAドライブに入れてハードディスクからコピーする、と言う方法が採られたからです。その後、CD-ROMとか、色々な記録媒体が用いられるようになって、フロッピーの需要が減り、いまはAドライブのフロッピードライブも無くなってしまいました。それでハードディスクがCとなり、A・Bは使われなくなりました。フロッピーのデータを利用するためにUSB端子に接続する外付けのフロッピーディスクドライブを接続したときは「エクスプローラ」に「A」と表示されて、曾ての姿を見ることができます。

RAID（レイド）を活用しよう。

ハードディスクは壊れやすい代物です。めったに壊れないのですが、壊れたときに中にあったデータは、多くの場合すべて失われます。大事なデータを失わないためにバックアップを常に心がけましょう。バックアップはパソコン内蔵のハードディスクのデータを外付けのハードディスクにバックアップしたり、CD、DVDなどにバックアップしたり、今流行のSky Driveなどのインターネット上の保管場所にバックアップしたりして、不慮の事故によるデータの消失を防ぎます。バックアップの場合は、バックアップの頻度により、最新のデータが残らない場合があるので、Raid（レイド）も頼りになる存在です。Raid 1と言う形式では、2つの同じ容量のハードディスクに常に同じ内容を記録します。ハードディスクが2台1度に壊れる確率は低いので、もし2台のうち1台が壊れたときは、壊れたディスクを外して、新しいディスクを入れてやると、残った1台のディスクから新しいディスクにデータが補充されて再び前と同じようにデータの保存が続けられます。